

【導入事例】国土技術研究センター ExcelからBacklogへ進捗管理を移行し、組織を超えた情報共有を効率化

株式会社ヌーラボ（本社：福岡県福岡市、以下 ヌーラボ）が提供するプロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」は、一般財団法人国土技術研究センター（本部：東京都港区、以下 JICE）に導入され、プロジェクトの進捗管理や外部関係者との情報共有に活用されています。



※以下、事例取材記事『[エクセルからBacklogへ。日本の国土交通政策を支えるJICEが挑む、組織を超えたプロジェクト管理効率化](#)』よりコメントを抜粋・編集・再構成。

■ 「Backlog」を導入した背景

JICEは、国土交通政策の「先導と補完」をミッションに掲げ、技術的な調査研究を通じて政策の実装を支援しています。

従来、プロジェクトの進捗管理にはExcelなどの表計算ツールで作成したガントチャートを使用していましたが、管理項目の増加に伴い、更新作業が煩雑化。さらに、外部組織との情報共有がメールに分散し、案件の背景や意思決定の経緯を関係者間で共有・引き継ぐことにも負担が生じていました。

こうした課題を背景に、Backlogの無料トライアルを開始。実際の業務で操作性や進捗管理の方法を検証し、本導入を決定しました。

■ 「Backlog」を活用した取り組み

ExcelからBacklogへ進捗管理を移行

プロジェクトの進捗管理を、Excelで作成したガントチャートからBacklogへ移行。タスクごとに期限やステータスを登録し、Backlog上で進捗を確認・更新できるようになったことで、進捗管理にかかる負担を軽減しました。

外部関係者との情報共有をBacklogに集約

パートナー企業などの外部関係者にもゲストアカウントを付与し、プロジェクトの進捗管理やファイルの共有、関係者間のやり取りをBacklogに集約。組織を超えて同じ情報を確認しながら業務を進められる環境を整えました。

重要文書の作成から複数人でのレビューまで一元管理

計画書などの重要文書の作成や複数人によるレビューに、Backlogのドキュメント機能を活用。文書の作成からレビューまでをBacklog上で円滑に進めるほか、新たなメンバーが把握すべき情報を文書化することで、プロジェクト参加時の説明を簡略化しています。

■ 一般財団法人国土技術研究センター 担当者のコメント



左) 技術・調達政策グループ 総括 早川氏、右) 技術・調達政策グループ 研究員 亀山氏

建設分野でもプロジェクトマネジメントの重要性は認識されていますが、その方法や実践の度合いにはばらつきがあります。Backlogのようなツールを日常的に使うこと自体が、プロジェクトマネジメントを実践する入り口になると考えています。

また、私たちの業務では、誰が何を根拠に意思決定したのかを残すことが非常に重要です。判断の経緯を構造化して蓄積することが組織のナレッジとなり、プロジェクトの後戻りを減らすことにもつながります。今後は、Backlogに蓄積した情報を生成AIで活用するためのトライアルにも取り組んでいきたいと考えています。

■ Backlogについて

Backlog（バックログ）は、チームで働くすべての人が使えるプロジェクト・タスク管理ツールです。課題管理やガントチャート、ドキュメントなどの機能を通じて、チーム全体の進捗や役割分担を一元管理し、情報共有・タスク管理の効率化を支援します。

<https://backlog.com/ja>

■ 株式会社ヌーラボについて

代表者：橋本正徳

本社：福岡県福岡市中央区大名一丁目8-6 HCC BLD. 2・6・7F

東京事務所：東京都港区芝大門二丁目1番16号 +SHIFT SHIBADAIMON B1F

コーポレートサイト：<https://nulab.com>

採用サイト：<https://careers.nulab.com/>